

暖房を使わずハウスで野菜を1年中作る

概要 Abstract

北海道各地の気象特性に応じてパイプハウスの保温装備と耐雪性を強化すると、秋冬と早春に葉菜類を無加温で栽培できます。これらを組み合わせると北海道でも野菜の周年栽培が可能です。

成果 Results

1. 道北地域で早春に葉菜類が栽培できます

ほうれんそう、こまつな、みずな、チンゲンサイを2月に播種・定植すると、4月収穫が可能です。

品目	播種日 (定植日)	収穫日	収量(t/10a)
ほうれんそう	2月6日	3月29日	1.8
こまつな	2月6日	3月24日	2.7
みずな	2月7日	4月2日	4.2
チンゲンサイ	2月7日 (2月20日)	4月4日	5.2

※道北地域で4層フィルム(外張り二重+内張り+トンネル)で栽培した場合

2. 秋冬に色々な野菜が栽培できます

各種葉根菜類の耐寒性を明らかにし、栽培技術を開発しました。

栽培限界 温度	栽培可能品目
-2℃以上	結球レタス
-5℃以上	からしな(わさび菜)、チンゲンサイ、 小かぶ、こまつな、紫からしな、 みずな、紫みずな、リーフレタス
-10℃以上	ベビーリーフ、ほうれんそう

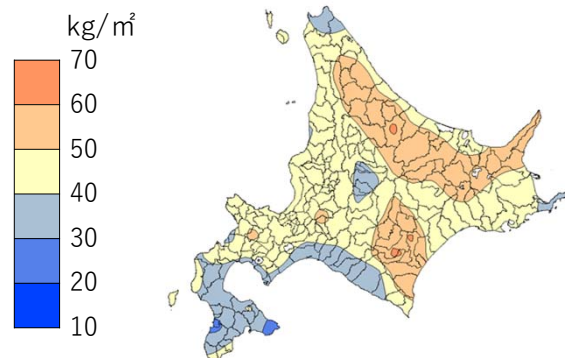
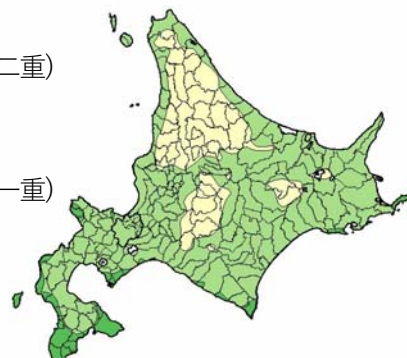
3. 冬作に向けたハウスの強化が必要です

各地の冬の気象条件をもとに、冬の栽培に必要な保温装備と耐雪強度を明らかにしました。

5層フィルム
(外張り二重+内張り+トンネル二重)

4層フィルム
(外張り二重+内張り+トンネル一重)

3層フィルム
(外張り二重+トンネル一重)



パイプハウス内温度-5℃を確保するための保温装備と適用地帯

道内各地のパイプハウスに必要な耐雪強度

4. 無加温ハウスで一年通じて野菜を栽培できます

各季作を組み合わせた周年栽培を行うことで、生産者の収益性が向上し、周年雇用ができるようになります。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トマト		播種	定植				収穫					
チンゲンサイ				収穫					播種	定植		
ほうれんそう		播種		収穫								

普及 Dissemination

冬季栽培マニュアル、保温装備マップ、耐雪強度マップを作成しました。試験場HPで公開します。



連絡先 Contact

上川農業試験場
研究部 生産技術グループ
0166-85-2200
kamikawa-agri@hro.or.jp



URL MAIL